

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コペルプラス宮崎駅前教室（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 7 月 1 日		～	令和 7 年 7 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和 7 年 7 月 1 日		～	令和 7 年 7 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 9 月 5 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さまの特性に応じた、質の高い専門的な支援	お子さま一人ひとりの発達段階や特性、保護者のニーズを丁寧に把握し、個別支援計画に反映させています。また、毎回のレッスン後には、その日の様子を記録し、保護者の方へ細かくフィードバックすることで、支援内容の共有と連携を密にしています。	いただいたご意見にもあった「難しい課題の意図」について、今後はレッスンのねらいや目的をよりわかりやすく事前にお伝えする機会を設けていきます。また、個別支援計画の説明時には、お子さまの成長をより具体的にイメージできるような情報提供を心がけます。
2	お子さまが楽しく安心して過ごせる環境	お子さまが主体的に活動できるような空間づくりと、職員の配置を工夫しています。また、個別レッスンと集団レッスンのバランスを調整し、お子さまが無理なく楽しめるようなプログラムを提供しています。清潔で快適な環境づくりにも配慮しています。	いただいた「集団になるとやや狭い」というご意見を参考に、限られたスペースを最大限に活用できるよう、さらなる空間の有効活用を検討します。例えば、活動内容に応じて家具の配置を柔軟に変えるなど、お子さまがより広々と活動できる工夫をしています。
3	保護者との密な情報共有と連携	毎回のレッスン後に、お子さまの様子や成長について口頭でお伝えするだけでなく、フィードバックシートを必ずお渡ししています。また、定期的な面談を通じて、保護者の方の子育てに関するお悩みやご相談に丁寧に対応しています。	「家族支援プログラム」や「保護者・きょうだい交流会」など、保護者同士が交流できる機会や学びの場が不足しているとのご意見をいただきました。今後は、保護者の方のニーズを具体的に把握した上で、イベント等の開催を計画し、皆様への周知を徹底してまいります。また、非常時のマニュアルについても、保護者の方がいいつでも確認できるよう、よりわかりやすい形で情報提供を行っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族・きょうだい向けの支援機会の不足	・事業所の支援が個別療育に特化しているため、全体を対象としたイベントや交流会を企画・実施する機会が少なかった。 ・保護者の方々が自身の多忙さや送迎時間の都合から、交流の場に参加しにくい状況が考慮されていなかった。 ・家族支援プログラムやきょうだい支援についての情報が、保護者の方々に十分に伝わっていなかった。	情報提供の強化：家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や、きょうだい支援の重要性について、定期的に保護者向け通信やSNSで情報を発信します。 個別相談の強化：個別面談の際に、ご家族全体への支援や相談の必要性がないか積極的にヒアリングし、一人ひとりの状況に合わせた支援を提案します。
2	非常時対応や安全確保に関する情報共有の不足	・書面での情報提供が一度きりとなっており、その後の周知が不足していた。 ・マニュアルや訓練の実施状況について、具体的な内容を伝える機会が設けられていなかった。 ・保護者が安心して預けられるよう、事業所の安全対策を「見える化」できていなかった。	非常時対応マニュアルや訓練の実施結果について、保護者向け通信や連絡ツールにて詳細をご報告します。また、マニュアルは事業所内にも分かりやすく掲示します。 避難訓練の実施日や内容を事前にお知らせいたします。

3	活動プログラムの固定化への懸念	限られたスペースで多様な活動を行うことの難しさから、意図せず活動パターンが固定化してしまうリスクがある。	集団療育の際は、単に身体を動かすだけでなく、活動や課題の内容を工夫し、スペースの制限を感じさせない工夫をします。
---	-----------------	--	--